

Introduction.

かけがえのない愛器を選ぶコツを
クラフツマンからひと言ふたい言

いちど手にしたギターはその後の音楽性に決定的な影響を与えてしまう。まず、どんな音が欲しいのか。人生を輝かせるための意気込みでこは飲み込む。音の傾向をつかまかけたら次のステップは、どのモデルがどんな音を出すかを研究すればいい。たとえば、どのフレイヤーがどんなモデルでどんな音を出しているかなど。一流フレイヤーが弾いているか。人生を輝かせるための意気込みでこは飲み込む。音の傾向をつかまかけたら次のステップは、どのモデルがどんな音を出すかを研究すればいい。たとえば、どのフレイヤーがどんなモデルでどんな音を出しているかなど。一流フレイヤーが弾いているか。

Act.1

ヤマハコネクショとは
ハードボイルドな、つまり基本に忠実な
ギターづくりのセオリーなんだ。

エレキギターは音のついでに、ピックアップだ、ハブやボディが問題だ。一見有意義でじつは不毛な論議は無縁でいたい。エレキピックアップは、ボディの持つ固有の音をピックアップで電気的にコントロールしながら再現する楽器だから、両者は「一体の関係」として追求されるべき。この考え方をヤマハコネクション。楽器としてどんな素材、回路、イクウィップメントを使い、どうアレンジしているかを、全体から部分、部分から全体にわたってじっくり見きわめて欲しい。そして、かけがえのない愛器に、見た目だけに留まった音創りにふよむなギターをつかまなければならぬ。結局は直接手にとって確かめなければならぬことに気がつくと思う。ここでようやく実際のギターを鑑賞



にして、フリーク諸君と私たちが設計者が運命的に出逢うわけだけだ。ど、諸君はさらに冷感ななな。たとえば、ネックが反っていないか、弦がずびついていないか、弦高は適正か……などだ。なぜなら、最終の調整がしっかりしているかどうかで設計者の意図したパフォーマンスが実現してしまったりあり

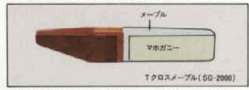
ヤマハクラフツマンのギターづくりのセオリーである。このセオリーに忠実に期して、ヤマハのモデ

るのだ。もちろん、ギターは生きているから調整状態も時々変化している。チェックする時にはそのギターのベストコンディションで試奏できるように心をおいてお店の人に相談しよう。そうすれば、生涯のパートナーをみすみす見逃すなんて悲劇も防げると思う。

Act.2

ひとつにソリッドギターといつても、素材や構造のちがいで音はデリケートに変化する。

ソリッドギターはふつう単一材からボディを削り出した単板ボディ、ボディのトップとバックに性質の異なる素材を用いたラミネート(貼り合わせ)ボディをもっている。そして、シャープでクリアな音創りが得意なシングルポテンピックアップには単板ボディが、分厚いバワフルな音創りが得意なハンバッキングピックアップにはラミネートボディが最適だ。ヤマハのソリッドギターは、各シリーズごとに貫いたサウンドポリシーを与えるため素材を吟味・厳選・構造的にも手ぬきの完全ソリッドの削り出しボ



ディを採用している。ちなみにラミネートの原則はトップに固い木を、バックに柔らかくて軽い木を用いること。トップで弦振動をガツガツと捉えてアタック感と音の張り、バックでトップから伝わってきた音に深みやひろがりを与えるわけだ。(参考:「ギター」)

Act.3

いずれ挑戦せねばの
セミアコ、フルアコだから。ボディに漂う
ミステリーを解いておこう。

まず、フュージョンシンの立役者セミアコースティックギターの場合、ソリッドギターなみの音の立ちあがりの実現と空潤をもつギターに特有のフィードバックを抑えるため、中心にトップブロックもたせ

ソリッドなボディが主流となっている。ヤマハのセミアコSAは、メイプルをスプルースではさんだ独特に合わせ、じつりと弾き比べ、使い分けて欲しい。



のコンビネーションブロックを採用。タイトに立ちあがってふよかにひろがるその響きのよさは絶賛されている。一方、生の音がとくに問題となるフルアコースティックギターの場合、ボディトップの材質、厚さ、木目に對する採り方・削り方・細心の配慮が要求される。ヤマハのフルアコAEは、内部響槽と一体で削り出すカーブドスプルーストップや一枚のスプルースを成型するアーチドスプルーストップ(51205/14700)と呼ばれるオールモデルを徹底的に分析しつづけるから、これを超越する幾多のモデルを輩出し続ける



Act.4

木はどんな音を出すのか

メイプル: 固く、密な木質は芯のあるタイトな音を生み、ソリッドハンパッカーのボディトップ材に不可欠だ。ネック材としても有名なエレキピックアップギターの素材の代表選手。ステージ上でのライティング映えも申しふんのない美しい木地をもっている。マホガニー: 性質は柔らかく、甘い粘り艶のある

音質が特徴。ソリッドハンパッカーのボディトップ材やネック材としてひんぱんに用いられる。メイプルと並ぶエレキピックアップの素材の主力選手だ。アルダー: オールドストラのボディ材として加えられる幻の素材がこのアルダー。同じ柔らかな性質をもつマホガニーの艶や粘りに対し、枯れたブロード感のある音を生みだしてくれる。ヤマハではこの逸材をSF、F、SC、SJ、BBシリーズに採用している。セ: 性質は比較的柔らかくクリアですなわな音を生み、シングルポテンピックアップと好マッチング。ソリッドベースのボディ材としても活用され、サウンドイメージにびつたりの木地の美しさも魅力だ。ナト: 性質はやや重く柔らかい。コンクリートにも似たガツン、ガツンとくるベースサウンドが特徴のSBモデルのボディ材にこれだ。ソリッドハンパッカーの新しい可能性を求めSG-800のボディトップ材にも採用。ステージを制する破壊力がすごい。スプルース: 性質はすこぶる柔らかく、立ちあがりが出てふよかにひろがるウォームな音を生み出す。グラウンドアのエペック材として知られる高級素材で、その響きは限りなくアコースティックなものだ。

エレキピックアップの心臓となるピックアップは構造のちがによりシングルポテンタイプとハンバッキングタイプの2種類がある。シングルポテンピックアップはピックアップの基本スタイルで、コイルが1つだけピックアップの構造。すなわち中低域と高域のシャキッとした切れ味を身にしている。このシングルポテンピックアップを直列につなぎ磁極をマッチングさせることでハムを打ち消すように設計されたのがハンバッキングピックアップだ。さらにハンバッキングピック

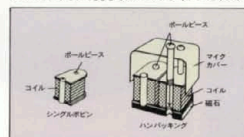


ヤマハのエレキピックアップは、原材料に由来するまでに関にわたる厳格な検査が行われている。1年以上にわたる自然乾燥から製業工程の間に行なわれシーリングまで、時間の差はあてられそれが重要な意味をもつ。ボディ材の含水率は最終的にグラブドヒミジ基準率の8%まで落ち落とされる。

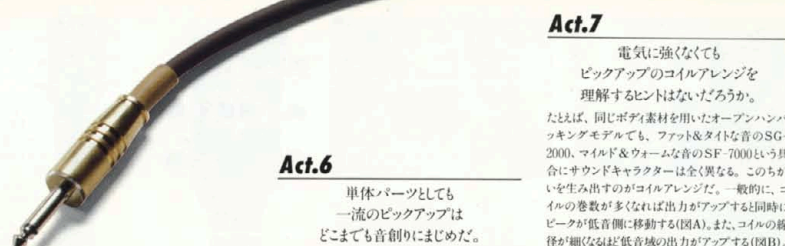
Act.5

流行にかかわらずな感性で弾き分けたい
シングルポテンサウンドと
ハンバッキングサウンド。

エレキピックアップの心臓となるピックアップは構造のちがによりシングルポテンタイプとハンバッキングタイプの2種類がある。シングルポテンピックアップはピックアップの基本スタイルで、コイルが1つだけピックアップの構造。すなわち中低域と高域のシャキッとした切れ味を身にしている。このシングルポテンピックアップを直列につなぎ磁極をマッチングさせることでハムを打ち消すように設計されたのがハンバッキングピックアップだ。さらにハンバッキングピック



アはカバーの有無によってオープンとカバーの2タイプに。オープンタイプはブライドで力強いハイパーサウンドだが、カバータイプはメロウで密度の濃いサウンドが特徴だ。次にヤマハの場合を深掘ら



Act.6

単体パーツとしても
一流のピックアップは
どこまでも音創りにまじりだ。

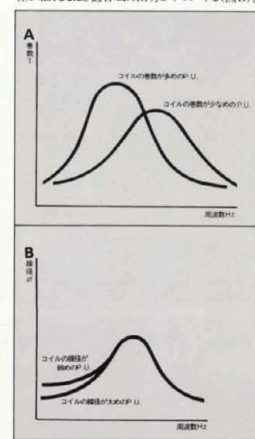
ヤマハのピックアップは、シングルポテンタイプがC-F-L-A-Eシリーズの3系統。ハンバッキングタイプがG-F-L-A-Eシリーズの5系統。そしてベース用ピックアップがB-S-Pシリーズの3系統。しかも、シリーズごとにコイルアンジ(μH)を変えて、サウンドポリシーを層層異なるものにして、加えて、シングルポテンながらも驚異のバイパス回路をえたCマイク、セミアコという独特のハイパーハンバッキングの構造を併せ、ハイワイロー低ノイズを実現するGマイク、あるいは、抜群の音程感が得られるソリッドベースBBのハイブレイアウトアスプリアタイプB-1マイクなど。ヤマハのピックアップは、フレイヤーの要求を先取りした具体的なアイデアと可能性に富んだ4サムシングをもっている。



Act.7

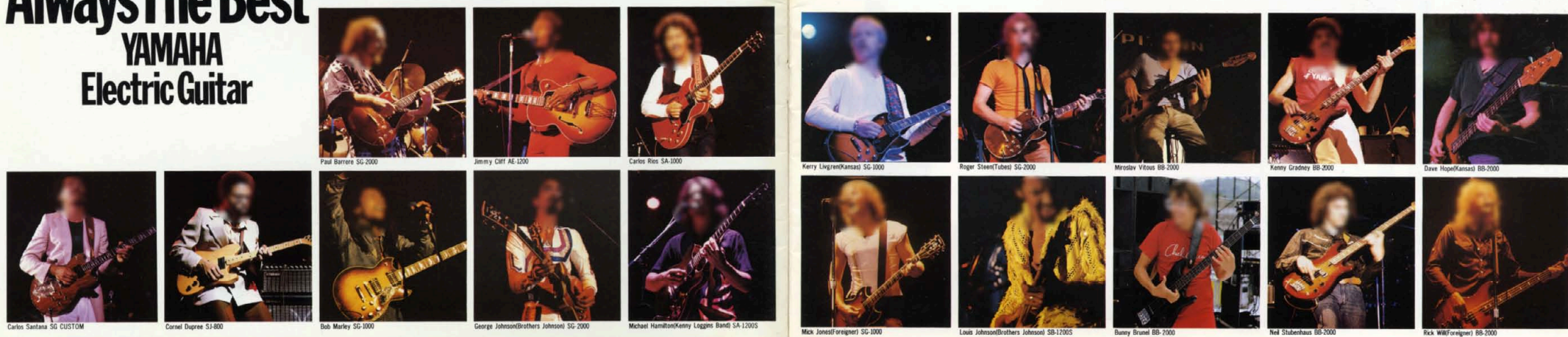
電気に強くなくても
ピックアップのコイルアンジを
理解するヒントはないだろうか。

たとえば、同じボディ素材を用いたオープンハンバッキングモデルでも、フラット&タイトな音のSG-2000、マイルド&ウォームな音のSF-7000という具合にサウンドキャラクターは全く異なる。このちがいを生み出すのがコイルアンジだ。一般的に、コイルの巻数が多くなれば出力が増えると同様にピークが低音側に移動する(図A)。また、コイルの線径が固定なほど低音域の出力が増える(図B)。



もちろん磁石の磁力や合金の成分によっても音が変わるけれど、やはりコイルアンジはピックアップの音色を決定するうえでとても重要な意味をもっている。

Always The Best YAMAHA Electric Guitar



Carlos Santana SG CUSTOM Cornell Dupree SA-800 Bob Marley SG-1000 Paul Barrere SG-2000 Jimmy Cliff AE-1200 George Johnson(Brothers Johnson) SG-2000 Carlos Ross SA-1000 Michael Hamilton(Kenny Loggins Band) SA-1200S Kerry Livgren(Kansas) SG-1000 Roger Steen(Tubey) SG-2000 Michael Hamilton(Kenny Loggins Band) SA-1200S Kerry Livgren(Kansas) SG-1000 Roger Steen(Tubey) SG-2000 Mroslaw Vitous BB-2000 Kenny Gradney BB-2000 Dave Hope(Kansas) BB-2000 Mick Jones(Foreigner) SG-1000 Louis Johnson(Brothers Johnson) SB-1200S Bunny Brunel BB-2000 Neil Stubenhaus BB-2000 Rick Wills(Foreigner) BB-2000